

谷崎 潤一 議員（代表質問）

1 コンピュータ管理運営費・D X推進事業費・システム改修等に係ることについて

- (1) 令和7年度当初予算にてコンピュータ管理運営費3億1,983万円計上され、令和7年度6月補正予算にて約1億218万円が予算計上されていることについての詳細は。
- (2) 富山県内の自治体とコンピュータ管理運営費等の在り方などの話し合いはされているのか伺う。
- (3) 当初予算にて生活保護総務費で約3,375万円を計上している。6月補正で約124万円計上されている生活保護システム改修の内容の詳細はどうか。また、このシステムがない場合はどのようなことに困るのか。
- (4) 3月定例会で令和3年度から令和7年度までの情報管理費におけるデジタル関連の予算の合計は約11億円程度になっており、そのうち一般財源は7億円程度であるとの答弁であった。今回上程されている補正予算も含め、逆にコスト高になったと思われるが市の見解を伺う。

2 児童福祉事務費について

- (1) 国モデル事業「こどもの居場所づくり支援モデル事業」の事業内容について、従来のこども居場所づくりと「こどもの居場所づくり支援モデル事業」の違いは。また、子ども食堂等の実施委託とあるが、ほかに委託する事業内容と開催頻度を伺う。
- (2) このモデル事業は滑川市内の事業者を対象に委託事業として複数募集できるのか伺う。

3 官民連携・実証促進事業費について

- (1) 旧町部エリアの回遊性向上を目的としたARコンテンツの内容や必要性・実施範囲・経費などを伺う。

(2) 「NAMERIKAWA ARTIST IN RESIDENCE」
が開催されるが、人選や展示内容など決まっているのか伺う。

(3) 市内小中学校の児童・生徒や滑川高校の生徒など、参加は可能なのか
伺う。

中川 勲 議員（代表質問）

1 防災対策について

- （１） 能登半島地震から１年５か月経過した。滑川市として課題があると思うが現状を問う。
- （２） 液状化被害が常光寺、堀江地区で発生したとのことで、地下水低下工法を行うとのことであるが、詳細について問う。
- （３） ポンプで地下水をくみ上げると思うが、電気使用料金を対象住民が支払う可能性もあるとのことであるが、滑川市で負担できないのか。
- （４） 消防団員募集のために予算が計上されているが、内容を問う。

2 S D G s 未来都市について

- （１） S D G s 未来都市に県内で５番目に選定されたが、市民にどのように P R していくのか。また、何を重点的に取り組むのか。
- （２） 命と暮らしを守る、道路や農業用水路の安全対策は進んでいるのか。
- （３） 藻場の状況調査をされ、その後どのように対応されるのか。

3 除雪対策について

- （１） 今冬の除雪の反省点と、今後の対応は考えているのか。
- （２） G P S 端末を利用した除雪管理システムが、除雪の進行状況をリアルタイムに確認でき、指示や市民の問い合わせにも迅速に対応できるとのことであるが、導入の考えはないのか。
- （３） 先日行政視察に行った自治体では、車道は１０～１５センチメートル、歩道は１５～２０センチメートルの積雪で出動、また、農道などでも市民が利用していれば、除雪するとのことであるが、当局の考えは。

4 富山地方鉄道の運営について

- (1) 富山地方鉄道の経営状況の現状は。
- (2) 滑川市として今後どのような支援を考えているのか。
- (3) 自転車も一緒に乗車できるようにすればと思うが。

5 市管理施設について

- (1) あずま保育所、坪川保育所設備の改善は進んでいるのか。
- (2) メリカの安全対策が建設が完成してから度々行われているが、設計時点で考えられなかったのか。

大浦 豊貴 議員（一般質問）

1 ウェイトリフティング日本代表強化合宿について

- (1) 7月9日から7月14日の期間、滑川市総合体育センターにおいて、ウェイトリフティング日本代表の強化合宿が予定されている。期間中にその他一般の利用を希望する個人、団体の総合体育センター利用に関する制限について問う。
- (2) 合宿期間中の支援・PR等の有無について問う。また参加者数を問う。

2 観光施設について

- (1) 今定例会の市長提案理由において、ほたるいかミュージアムの令和6年度入館者数は前年度から、14,780人増の69,513人で対前年比約27%増と報告された。令和6年度入館者数の月別前年比を問う。
- (2) ウェーブ滑川が行う事業の部門別（ほたるいかミュージアム・アクアポケット・レストラン・道の駅売店・観光遊覧船）料金収入について令和6年度の対前年比を問う。
- (3) 令和7年4月・5月の部門別（ほたるいかミュージアム・アクアポケット・レストラン・道の駅売店・観光遊覧船）料金収入について対前年比を問う。また、ほたるいかミュージアムの入館者数の対前年比を問う。

3 宿泊施設について

- (1) 旅館業法第1条で「この法律は、旅館業の業務の適正な運営を確保すること等により、旅館業の健全な発達を図るとともに、旅館業の分野における利用者の需要の高度化及び多様化に対応したサービスの提供を促進し、もって公衆衛生及び国民生活の向上に寄与することを目的とする」と明記されている。第2条では、「この法律で「旅館業」とは、旅館・ホテル営業、簡易宿所営業及び下宿営業をいう」と定められているが、本市における、それぞれの宿泊施設数を問う。また、「旅館・ホテル営業」の客室数を問う。

- (2) 観光立国推進基本法第8条第1項及び第2項の規定に基づき、観光の状況及び政府が観光立国の実現に関して講じようとする施策について、「観光白書」にて毎年国会に報告されている。令和7年5月には令和7年版観光白書について（概要版）では、観光立国推進基本計画に掲げる「国内交流拡大」に着目した分析が報告された。日本の観光の動向（宿泊旅行）2024年の日本人延べ宿泊者数は4億8,668万人泊、外国人延べ宿泊者数は1億6,360万人泊であり、客室稼働率は全体で60.5%（ビジネスホテル73.9%・シティホテル72.4%・リゾートホテル54.6%・旅館36.8%・簡易宿所29.0%）と報告された。（観光庁観光統計2025年2月28日プレスリリースされた「宿泊旅行統計調査」の2024年間値（速報値）1月から12月 富山県全体では、54.6%・旅館30.6%・リゾートホテル25.8%・ビジネスホテル67.0%・シティホテル72.2%・簡易宿所12.1%）本市の宿泊旅行客数や客室稼働率に関する見解について問う。また、ほたるいか海上観光期間中における各年度の海上観光乗船者の市内宿泊者数や客室稼働率の推移について見解を問う。
- (3) 市内において、宿泊施設を営む者または営もうとする者に対し助成金を交付することにより、観光、ビジネス等で本市を訪れる者の宿泊施設を確保することで、まちのにぎわいの創出及び都市機能の充実を図り、市内経済の活性化を推進するため、滑川市補助金等交付規則第21条の規定に基づき、滑川市宿泊施設立地促進助成金の交付を行っている。助成金交付に係る予算編成及び、支援制度の対象条件等の見解について問う。
- ア 交付要綱では宿泊施設は、旅館業法第2条第2項に規定する旅館・ホテル営業の用に供する施設及びその同一敷地内の附属施設としており、簡易宿所営業及び下宿営業以外となっている。また新築の場合、対象を30室以上の宿泊施設と定めていることの見解について問う。
- イ 新築対象事業の設備投資額・固定資産税相当額に係る助成金の額は、設備投資額に100分の20を乗じて得た額とし、1億円を上限とし、宿泊施設の営業開始日以降、最初に課税された年度から起算して5年度分を対象に、各年度における固定資産税相当額の合計額としている。支援制度対象宿泊施設が本市において進出した場合に投資額に対する成果をいかに判断されるのか説明を求める。
- ウ 現在、柳原南交差点角に本市と災害時における移動式宿泊施設等の提供に関する協定を締結している株式会社デベロップが、移動可能なコンテナモジュール「HOTEL R9 The Yard」の運営に向けて準備中と聞いている。この宿泊施設は助成金対象の宿泊施設であるか問う。また、対象施設である場合の助成金交付額の見込みについて問う。

水橋 真治 議員（一般質問）

1 減税を目指した行政評価について

- (1) 令和7年度が始まり、当初予算に基づいて各事業が行われているが、事業の計画・実行を進めるに当たって、事業評価の目的は意識されているのか。
- (2) 現在行っている個別事業の評価に加え、市長や部局長、各課の目標を年度初めに設定するとともに、今後は政策の進捗状況について評価する政策評価にどのように取り組む予定か。
- (3) 限りある財源で効果を最大限化するという視点のもと、歳出の適正化に取り組まれているが、行政評価を生かして、無駄な仕事を減らし財政の余力を生み出すことで、一部を市民税や固定資産税の減税に充てることはできないか。

2 「持続」「安全」「強靱」な水道事業について

- (1) 「公共施設等総合管理計画」において、水道施設はどのように位置づけられ、どのような更新方針が設定されているか。
- (2) 水道施設の老朽化と更新費用の見える化に当たって、水道施設の維持更新コストだけではなく、他公共施設の維持更新コストも含めた総合的な情報提供を行うべきと考えるが、見解を伺う。
- (3) 水道施設の維持更新に際して、劣化診断技術、漏水検知システム等の新技術を活用する方法があるが、費用対効果を考慮した上で導入する予定はあるか。

3 タラソピア解体後の跡地活用について

- (1) タラソピア解体後の跡地の活用、はまなす公園の整備について、現在どのような考えで、活用方法の計画は立てられているのか。

- (2) ベイエリアとして、滑川蒲鉾工場跡地、新しい装置が導入されるアクアポケット、道の駅、ほたるいかミュージアムとつなげて再開発してはどうか。

4 子育て、教育について

- (1) 児童館に、「地域子育て相談機関」として「キラット保健室」が設置された理由について伺う。
- (2) 市内全小中学校で、コミュニティ・スクールが開始されたが、昨年度の教員の働き方改革の具体的な取組の成果と課題に基づいて、今年度はどのように取り組むのか伺う。

安達 真隆 議員（一般質問）

1 市内公共施設の維持管理について

- (1) 6月定例会市長提案理由説明で、中滑川複合施設メリカの避難器具の設置で予算計上してあるが、経緯を問う。
- (2) これまでも、メリカについては様々な追加工事が行われてきた。今までに追加した工事を問う。
- (3) メリカがオープンしてから2年しか経過していない。あまりにも追加工事が多い。設計ミスが原因ではないか。
- (4) 市民交流プラザ「あいらぶ湯」の給湯設備更新工事の進捗はどうか。
- (5) 「旧タラソピア」建物解体、隣接するほたるいかミュージアムの運営上必要な設備移設工事の時期など、今後のスケジュールを問う。
- (6) 西地区公民館の空調設備の更新について詳細はどうか。

2 教育保育環境について

- (1) 私立認定こども園及び私立保育園に対して、国の交付金を活用し、空調設備の更新等の修繕工事費用が提案されている。詳細を問う。
- (2) 国の交付金申請は誰がどのように行っているのか。
- (3) 空調設備更新等を行う場合、市担当課から現地調査など行っているのか。

3 観光振興について

- (1) ほたるいか海上観光2025については、運航率47.2%になり、県内外から655人の観光客が乗船した。どのような声があったか。
- (2) 運航率が5割を切る中、多くの観光客を呼び込むには2隻体制に戻すことが必須だと思うが検討はできないか。

- (3) ほたるいかミュージアムの入館者数が、対前年比約27%増になっている。過去5年間の推移と今年度の予測は。

原 明 議員（一般質問）

1 行田公園の管理、整備について

- （１） 旧児童館跡地、遊具広場、ＳＬや格納庫の整備、園路の補修工事を計画的に進めることが必要である。見解を伺う。
- （２） ハナショウブの生育環境改善計画の最終年度となったが、生育状況を伺う。

2 駅前団地の跡地活用について

- ・ 駅前団地の解体から９年経過している。跡地の整備、活用計画が示されていないが、今後の予定を伺う。

3 農業の振興について

- （１） 地域農業の未来設計図である「地域計画」が令和６年度末までの策定が義務付けられた。策定結果と今後の取組を伺う。
- （２） 滑川市の農地での遊休農地、耕作放棄地、生産調整水田や自己保全管理の面積を伺う。

4 有害鳥獣による被害について

- （１） 有害鳥獣による被害状況は。
- （２） 他市町村では、サルによる農作物被害や市街地への出没が問題となっている。滑川市での状況について伺う。

5 学校教育について

- （１） 市内小中学校の外国人児童・生徒数は何人が伺う。

- (2) 日本語の指導を必要とする児童・生徒数は何人か伺う。
- (3) 外国人児童・生徒への生活・会話指導はどのように実施されているのか。
- (4) 外国人児童・生徒教育スーパーバイザーによる支援体制があると聞けるが、市内小中学校での支援状況について伺う。

古沢 利之 議員（一般質問）

1 補聴器助成制度の拡充について

（１） 軽中度難聴者への助成実績を（申請も含め）確認する。

ア 対象の補聴器金額

イ 対象者年齢

（２） 助成金額と所得制限の見直しの検討を改めて求める。

2 介護保険の「住宅改修費等」の給付対応について

（１） 令和５年12月に「受領委任払い」対応を求めた。本年３月から対応したと聞いているが、周知対応について。

ア 関係者への周知はどうか。

イ 市民向け周知はどうか。

（２） 対応事業者に市内事業者が少ないと思うが、今後の対応はどうするか。

3 特別障害者手当について

（１） 対象者について確認する。

ア 対象者

イ 現在受給者数

（２） 令和５年度版の福祉課による「障がい者のハンドブック」では「施設に入所したとき又は入院期間が３か月を超えたときは支給されません」とある。ここでいう「施設」とは具体的に何をさしているか。「グループホーム」、「サービス付き高齢者向け住宅」入所者は支給対象外か。

（３） 制度の周知について問う。

高川 正樹 議員（一般質問）

1 職員の働き方や職場環境について

- (1) 職員の働き方改革として、どのような働き方が行われているか。
- (2) 働き方改革としてあげた働き方をしている職員は、どのくらいいるか。
- (3) 職場での熱中症対策が義務化されたが、どのような対策が行われているか。また市の関連する施設等への周知は万全か。
- (4) 職員数が増え、新しい課や仕事も増えているが、職場の手狭感がある。また職員用の駐車場も不足していると感じている。何か対策はできないか。

2 交通安全について

- (1) 令和8年4月より予定されている自転車の交通違反の交通反則通告制度（青切符）に対する市民への周知はどのように行っていくのか。
- (2) 16歳以上の方の信号無視、携帯電話を使用しながらの運転などあげられているが、一時不停止なども対象となる。標識や白線などわかりやすく標示されているか。

3 スポーツ振興について

- (1) 公共施設のスポーツ少年団等の練習利用に係る使用料の減免については、利用する団体に定着したと感じている。今では無料が当たり前のようになっているが、施設を予約されても利用時間にその団体が来ないことがあると聞く。今一度、ルールを明確に周知するべきではないか。
- (2) 過去に小中高生たちがスケートボードをする場所を整備できないかと質問した際には、まずは市民のニーズの把握について行っていきたいとのことであったが、その後、どのように進めているか。

4 個別避難計画の作成について

- ・ 令和8年度までに作成することが努力義務化されているが、順調に進んでいるか。

開田 晃江 議員（一般質問）

1 教育について

（1）学校教育（コミュニティ・スクール）について

ア 学校運営協議会の委員は法律に基づいて教育委員会より任命された委員が協議するとあった。委員は何人でどのような構成なのか。充て職ばかりでなく、地域の特色や歴史を理解している人の人選はできないか。

イ どうしてこのような仕組みが作られたのか伺う。

ウ 学校運営協議会はどのようなことをするのか。

エ 滑川型コミュニティ・スクールが確立されるが、地域の歴史探訪や昔の遊び等、共通の課題を設けて行うのか。

オ コミュニティ・スクールのメリットやデメリットはどのようなことが想定されるか。

カ 意見が出ない、一人の意見だけで流れて行く、また、校長先生の権限まで脅かす等の問題が発生した場合の解決策は。

（2）教育環境について

ア 市内小中学校のトイレに生理用品の設置を。

イ 市内小中学校の保健室にシャワー室の設置状況はどのようになっているのか。全ての学校に設置されているのか。

2 まちづくりについて

- ・ 5月18日に行われた市政・県政合同報告会での市民の方の質問から

ア ラーケーションと言われる平日でも子どもが休める新制度・保護者との郊外学習（ラーニングバケーション）について、市の考え方を問う。

イ 期間を定めて試行的に、滑川市の全ての飲食店を対象にポイントカードを利用して飲食店の活性化を図ってはどうか。

ウ 福祉の質問がほとんどない、もっと福祉に関心をもってもらいたいとの意見があった。そこで滑川市のこども家庭センターを専門的な独立機関として、「滑川市児童発達支援センター」を創設する考えはないのか伺う。

尾崎 照雄 議員（一般質問）

1 5歳児健診について

- （１） 政府は、乳幼児健診をめぐり、5歳児健診の普及に向け自治体への強化に乗り出している。本市の取組について問う。
- （２） 医師の確保は大丈夫か。
- （３） 健診後の支援体制について問う。

2 教育について

- （１） 本市の学校司書の配置状況について問う。
- （２） 配置人数、勤務時間は十分であるか。
- （３） 本市の司書教諭の配置状況について問う。
- （４） 司書教諭に求められる仕事はできているのか問う。
- （５） 本市の司書教諭と学校司書の現状についての教育長の見解を問う。

3 熱中症対策について

- （１） 熱中症は、適切な予防や対処が実施されれば、死亡や重症化を防ぐことができる。ここで、熱中症は人の命に関わることから、熱中症対応マニュアル等の作成やWBGT(暑さ指数)の認知度向上や行動変容につながる発信など市民の生命を守る取組の推進も必要かと考えるが見解を問う。

- (2) 熱中症を予防するためには、脱水と体温の上昇を抑えることが基本であると言われている。ここで熱中症で亡くなる方の多くを占めている、熱中症弱者と呼ばれる高齢者の皆様に、熱中症予防のための行動を意識してもらうことも重要である。高齢者の皆様は、暑さや喉の渇きに対して敏感ではなくなっているケースもある。高齢者の熱中症を予防していくためには、介護や行政保健部門の関係者が一体となって、対策を的確に進める必要がある。そこで、高齢者の皆様への効果的な熱中症予防を進めるために、介護や行政保健部門の関係者と連携し、どのような取組を進めているのか、尋ねる。
- (3) いざ高温になった時、エアコンを入れても動かない場合や、エアコンのフィルターが汚れていて部屋が冷えない場合など、エアコンのトラブルが命に及ぶ危険性もある。熱中症による救急搬送者における発生場所の7割が屋内となっている。熱中症の予防のためには、クーリングシェルの整備に合わせて、外出が難しい高齢者世帯等のエアコンの点検や整備の推進も必要であると思う。また、脱炭素化の観点も組み入れたエアコンのクリーニングなどの普及促進等も重要と考える。そこで、エアコンの整備や点検の推進に向け、積極的な勧奨も必要かと思うが、見解を問う。
- (4) 学校における、子どもの熱中症を防ぐための取組も、大変に重要である。本市の全ての小中学校の普通教室には、エアコンが設置されているが、活用するための電気代の手当は十分なのか尋ねる。
- (5) 子どもたちの通学時の熱中症予防対策も必要と考えるが、どのような取組がなされているのか、また、熱中症警戒アラートが発令された場合、どのように対応していくのか、尋ねる。

4 東福寺野自然公園について

- ・ 本年3月定例会で、柿沢副市長は、公民連携手法の導入を考えている施設として、東福寺野自然公園を挙げられた。また、ワークショップを開催し、将来の在りたい姿について提案をいただき、もらった意見を踏まえて市としての整備の方向性を決めることが必要であり、検討を進めると答弁された。
 - ア そもそも本市にとって東福寺野自然公園の存在をどう考えているのか副市長に問う。
 - イ 公民連携手法とは、具体的にどういうことか。
 - ウ ワークショップで出た意見で検討に値するものはあったのか。

エ 整備の方向性は、いつまでに決めるのか。

吉森 真人 議員（一般質問）

1 企業版ふるさと納税（地方創生応援税制）について

- （１） これまでの寄附実績を問う。また、近隣市町村等と比較してどうなのか。
- （２） 寄附ができる企業に条件や制約があるのか。
- （３） 寄附金の本市における利用目的を問う。
- （４） 寄附金は、これまでにどのような事業に、いつ、いくら活用され、どのような成果を上げてきたのか。
- （５） 企業版ふるさと納税積立基金は、現在いくらあり、積み立て目標額などはあるのか。また、利用時期を定めているのか。
- （６） これまでどのようにＰＲ活動をしてきたのか。また、今後積極的にＰＲ活動していく考えはあるのか。

2 なめりかわ未来学校について

- （１） 「なめりかわ未来学校」を創設した目的について、改めて市の考えを問う。特に、北欧デンマーク流の教育手法を取り入れた背景や、その教育理念をどのように本市の子どもたちの育成に活かそうとしているのか。また、その理念や手法を市内学校教育に具体的に取り入れた点や、今後の連携に関する見込みについても伺う。
- （２） ３年目となるが、昨年度と今年度の事業内容に違いや特徴はあるのか。
- （３） 本年度は、プレ企画を３つ既に行ったが、プレ企画の概要と目的を問う。
- （４） それぞれのプレ企画における参加者数と、参加者からの感想を問う。また、市としてどのような手応えを感じているのか伺う。
- （５） サマースクールの本年度の募集人数を問う。

- (6) なめりかわ未来学校実行委員会負担金として、300万円予算計上されており、そのうち150万円は、市内企業等からの協賛金で賄うことになっている。どのような企業を対象としていて、現在、協賛金はどれくらい集まったのか。
- (7) 企業協賛をもっと幅広く募集し、市内外の企業から賛同を得られるように、市としてPR活動を積極的に強化していくべきではないかと考えるが、市の見解と、具体的な今後の取組について問う。
- (8) 次年度以降も「なめりかわ未来学校」を続けていくのか。

3 埼玉県比企郡滑川町との交流について

- (1) 滑川町との交流や連携について、市はこれまでどのような認識を持っていたのか。また、これまでに具体的な交流や情報交換などはあったのか伺う。
- (2) 滑川町との連携が実現した場合、本市にとっても観光振興、特産品のPR、教育・文化交流、災害時相互応援協定、移住・定住促進など多くの分野で可能性やメリットが考えられるが、市としてのこれらの分野における連携の可能性についてどのような見解を持っているのか。
- (3) 市として滑川町との連携に向けて、具体的に検討や準備を進めていくつもりはあるのか。また、連携を本格的に進めるのなら、どのような課題が想定されるのか、今後の展望と合わせて見解を伺う。

青山 幸生 議員（一般質問）

1 消防団員の担い手について

- (1) 今定例会で、消防団の力向上モデル事業が国から採択され、消防団員を募集するための車両ラッピングを行うとのことだが、その経緯と具体的な内容はどうなっているか。
- (2) 市長提案理由説明では、コミュニティバスなど効果的にPRできる車両と聞いているが、どの車両を想定しているのか。
- (3) 昨年の質問では、岐阜県の高山市で開催された消防フェスティバルの事例を使い、一般来場者に消防署と消防団へ触れ合う機会を増やすよう提案した。部長答弁では、「活用も含めて検討したい」とのことだったが検討はしたか。

2 体育館の空調設置について

- (1) 3月定例会では、滑川中学校と早月中学校の体育館空調設備設置調査で320万円の予算を可決した。現在の進捗はどうなっているか。
- (2) 体育館における空調設備整備臨時特例交付金が適用される際、「市内の各学校の体育館は断熱性が確保されているような構造とはなっていない」との説明があったが、どの程度の断熱性能を必要としているのか。
- (3) 早期に公立学校体育館における冷房整備にかかる空調設備整備臨時特例交付金の申請をしてはどうか。

3 健康寿命延伸について

- (1) 直近、特定健康診査（40歳～74歳）の受診率は5年平均何%になっているか。また令和6年度は何%か。
- (2) 直近、後期高齢者の健康診査（75歳～）の受診率は5年平均で何%になっているか。また令和6年度は何%か。

- (3) 特定健康診査及びがん検診の受診率を向上するためにしていることはあるか。また受診率向上について何かアイデアはあるか。